

# 道南・南茅部地区の昆布漁に関する生活語彙の研究

中 村 円 香

## 0. はじめに

本研究は、道南の南茅部、尾札部を中心としたコンブ漁を行う地域で話されている生活語彙の調査報告と分析を行うものである。

北海道の昆布の歴史は古く、寺子屋の教科書として広く用いられた『庭訓往来』にも当時の産物である昆布に関する記述が見られる。北海道の中でも、南茅部地区は昆布漁の歴史が長く、採れる昆布の質も良いことで知られている。「白口浜真昆布（しろくちはままこんぶ）」と呼ばれるこの地域周辺でしか採ることのできない昆布は、古くから朝廷や幕府に献上品として贈られることもあった。現在では、昆布の養殖が盛んに行われているが、これは30年ほど前から始まったものである。

調査対象とした南茅部は函館市に含まれる地域であり、その南茅部管内に尾札部町がある。平成16年に函館市とその周辺の町村が合併し、「南茅部町」という名前はなくなった。現在、北海道では年間およそ2万2千トンの昆布が養殖されている。尾札部を含む南茅部地域の昆布生産量は、天然のものと養殖のものを合わせおよそ4千トンである。これは国内の昆布生産量の約15パーセントを占めている（注1）

筆者は現地を訪れ、昔ながらの天然昆布漁・現在の養殖昆布漁の詳しい話を聞き、昆布漁に関する特徴的な言葉を採取した。本稿ではこれを昆布漁の流れに沿って提示していきたいと思う。天然昆布漁に従事する者が減少していく中で、どの程度老年層の方たちが使用している言葉が受け継がれているのかも合わせて提示していきたい。

聞き取り調査では、主に昔ながらの天然昆布漁の様子について話していただいたが現在は養殖昆布がほとんどである。世代ごとに生活語彙が受け継がれるか否かと関係するため、ここで天然昆布漁と養殖昆布漁の流れを以下に記述する。

## 天然昆布漁の場合

櫓をこぎ、沖まで船を出す。天然昆布は陸地から約100～200メートルのところに生えるので、そこまで移動する。漁の開始時刻は決められており、ラッパの音と旗を上げることにより開始を知らせる。漁場に到着したらマッカと呼ばれる二股の長い棹で昆布（2年間かけ成長したもの）を採取し、水揚げする。

昼ごろに漁は終了し浜に戻る。このとき、浜にはロクロボンズと呼ばれる道具が設置されているので、それを利用し船を人力で浜に引き揚げる。

その後、水揚げされた昆布は浜に天日干しされる。浜は砂地ではなく、石が敷き詰められた場所である。そこに昆布を一本ずつ並べ、およそ2日間（7、8時間程度）かけて乾燥させる。尾札部からやや南東にある古部では、浜ではなく民家の屋根に干すこともあった。昆布には「コケムシ（コゲムシ）」と呼ばれる生物が付着している場合があるので、昆布が乾ききる前に、人の手で掻き落としていた。日が沈む時間帯は昆布を一度浜に設置された番屋に保管し、翌日また浜に並べ干す。乾燥途中で雨が

## 1. 調査方法と対象者

### 1-1 調査方法について

2014年度の調査では、対面による聞き取り調査をおこなった。2014年8月20日に調査対象とした地域を訪れ、乾燥した昆布の加工作業を見学することもできた。聞き取り調査では、インフォーマントの一人のお宅にお邪魔し、複数人が集まって会話をしているところを録音した。2015年度は2014年度の調査を基にし、昆布漁に見られる特徴的な語の認知度を紙面によるアンケートで追加調査した。

### 1-2 インフォーマントについて

本研究では、主に60～80代の老年層の方を調査対象としている。以下が2014年度と2015年度の調査対象者である。

2014年度

イ…40代・女性（札幌へ引越しの経験あり）

ロ…60代・女性

ハ…20代・女性・学生（本稿執筆者）

ニ…80代・女性

ホ…60代・女性

ヘ…70代・男性・漁師

ト…70代・女性

2015年度

チ…70代・男性・漁師

リ…70代・男性・元漁師

ヌ…60代・男性・漁師

ル…70代・女性

ヲ…70代・女性

ワ…60代・女性

カ…60代・女性

ヨ…50代・女性

タ…30代・男性

ソ…30代・男性

ツ…30代・女性

## 2. 昆布漁に関する語と考察

### 2-1 漁の段階別の談話

\_\_\_\_\_…昆布漁に関係する言葉

\_\_\_\_\_…それ以外の特徴的な方言

#### ①船の動力と漁開始の合図

ト そして わし 嫁に 来た 頃だけー まだ 船外機って もの ないの

- ろー(櫓)漕いでいくの  
 イ 沖まで?  
 ト 沖まで ろー 漕いで  
 へ 今 昆布とり なるっても 放送するべ 何時から 何時まで とりますって  
 昔わ なんも 機械 なんも ねーもんだもん あの ○○(人名)の オン  
チャって人わー あの一 ほれ今の ○○の 親 ともかく 鳴る 前に ろー  
 押して 先の 方さ 行ってまるんだ ほして 待ってるわけだ ほせば あ  
 の一 ほら 旗揚げたなる なるか なんねーか 旗揚げたり 下げたり なん  
 ねーば また そして 帰ってこねーばねーべや  
 ホ だから 有線 ないから 旗揚げて やるんだもん  
 イ 旗って 見えんの? そんな 遠くから  
 へ だいたい 見えるとこ 先 でっばってる ところ  
 ト そして ほら あの なんつんだ 舟でも 旗もって 揚げたり するんだわ  
 うん 舟でも 旗揚げっけさ  
 ホ たいてい わかるよね あの一 すずえの べんてんじまに 揚げるんだわ  
 そー 見えんの うちの 方からでも

現在の昆布漁で使われる船は人力で動かすのではなく船外機が取り付けられている。昔の漁は機械に頼らず人力で沖まで出ていた。また、昆布漁を開始する際、現在では放送を聞き漁に出るが、やはり昔は機械がなかったので人が旗を揚げて合図を出していた。

## ②漁の際注意すべき風

- イ タンバカゼって とーさん わかる?  
 へ うん  
 ト なんだ  
 ニ タンバカゼったら  
 へ タンバカゼ (注2) 吹いてよー あの一 あれだで あれー 風で やられた  
 べー  
 ト タンバカゼって だっから どーいう ことへ いや そだ あら あれ  
 ト あー 舟 あれば タンバカゼ 吹いてって 言うの  
 んー したら 急に 吹いてくる ことば タンバカゼって 言うの  
 へ あー そやって 言うの  
 ト んー  
 イ うーん  
 へ とー あの あれだで ○○(人名)の あれだって  
 ト ○○か?  
 イ あー  
 へ ○○だって

- ニ ○○ちゃん 死んだ とき あれも タバカゼ だったの？
- へ あれがのー 結局 俺たち みった 歳だらせ 出る ときわ オガから  
吹いてらべせー
- ニ わかるからね 若いもんだから
- へ それ 今度わ のー 出るとき オガから ふい あの一 吹いてらっから  
あー オガから ※※(※※は聞き取れなかった部分)の風が 反対に なって  
タバ それこそ 急に 吹いてきたのよー それわ 子どもたちだから ほ  
らー あー どっちゃ 風 ムジッタな一って ことも  
わがねーべせ
- ト むじった
- ニ 歳いった 人だら わかるけど 若い 人わ その 風の あれが わかんない  
から それに あれされて どんどん 沖さ あれ
- へ 沖さ 行くから 回るろー

以前漁に出た若いものが、まだ風の知識がないために、急に風向きが変わり吹いた風(へ(70代男性漁師)は訛りが強く「タバカゼ」の「タ」と「バ」の間に入り渡り鼻音「ン」が入っている)にあおられて沖への方へ流され亡くなったという内容の会話である。へは「タバカゼは季節に限らず、低気圧が来たら吹く。北西から急激に嵐のように吹く風」としていた。また、2015年度調査インフォーマント「チ」によると、「へ」の定義しているタバカゼの意味に「秋になると」という条件が加えられていた。『北海道方言辞典』のタマカゼの項目にタバカゼという呼び方もすることが記載されている。タマカゼは『日本国語大辞典』では「冬の季節風の名。特に若狭湾以東の日本海沿岸で西北から吹く暴風をさしていう。たばかぜ。」とある。また、語源の部分を見ると「タマは靈魂の意。悪靈の吹かせる風の意か。」とある。これは柳田國男の『風位考資料』(注3)によるものである。『風位考資料』のタマカゼに関する部分に以下のような記述があった。

風は隠れて之を吹かしめる者があるといふことを、信ずる人々が近頃まであつた。多分はあの間歇を以て、巨靈の溜息の如くに想像するのが自然であつたからであらう。(中略)悪靈が風を吹起すといふ思想は、感冒をカゼといふ習はしと伴うて、船をもそこなひ又人をも煩はせて居た例が多いのである。(中略)早川孝太郎君の「飛島圖誌」を見ると、羽後の海上にはタマカゼと謂ふ西北風があつて、悪い風だといふことである。西北方はこの飛島などでは、最も用の無い方角だから、或はそちらの風の全部をタマカゼと謂つてもよいか知らぬが、他の多くの地方には西北風も使つて居る處がある。だから其方角の、特に船のためによく無い風だけを、タマといふのであらうと私は想像する。

柳田はタマカゼのタマは魂に通じ、人間の魂を奪っていく風をタマカゼと呼ぶとしている。録音した会話では、タバカゼによって亡くなった人について語られている。老年層であっても女性はタバカゼについての知識があまりない。しかし中年層の男性漁師の方はタバカゼということばを知っており、実際に海に出て漁をする者にとって

タバカゼと呼ばれる風は、命にかかわる重要な風であることが分かった。2015年度の追加調査で、タバカゼと言う語の認知度を調査したところ、男女間で差が出た。舟に乗り昆布漁を行う男性の認知度は高かったが、浜で昆布干しをする女性の認知度は低かった。(注4)

③ 船の巻き揚げ

- ト 浜さ 一本 一本 干してねー この 今みたいに 船 まがねー  
 ニ 石の上さ 干すんだもね  
 イ あー 昆布ねー  
 ト ね かさん  
 ニ うん そーだ  
 ト あの一 まがないでねー あの 浜さ 直接 船お つけるの  
 して そこで 干すの  
 ニ ※※ そんなに 作んなかったからね 昔わね

昆布漁が終わると浜まで戻り、そこで昆布を干す作業に移る。「舟をまぐ」ということばについてであるが、現在では漁から戻ってきた船は、後部に取り付けられているロープを機械で巻き取り陸上に固定するのである。なお、浜は船が海へ出やすいようにコンクリートで整備されている。今の状況を見ると船は機械が「まぐ」のである。しかし、昔はその機械はなかったため人力でロープを巻き取り、船を固定していた。画像にある道具だけではどのような状況で作業するのか分かりにくい、協力者の方の話では、まず斜めに二つ空いた穴に十字に組んだ木の板を通す。そして真ん中のくびれた部分に船につながるロープを巻きつけ、先ほどの木の板を押すと舟を浜に巻き揚げることができるらしい。この「船をまぐ」ときに使用する道具を「ロクロボンズ」または「ボンズ」という。『北海道方言辞典』では「ロクロ」に「船を巻き揚げるとき綱を巻き取る道具」と記載されていた。道具が回転するところからロクロの名が付けられたのであろうが、南茅部地区では「ロクロボンズ」を省略する場合、後ろの部分の「ボンズ」だけを残す。

さて、漁が終わり船を巻き揚げることに関して見てきたが、談話の中では「船を巻き揚げないで」とある。トの話では、漁が終わるとロクロボンズを使わず、そのまま浜へ船を着け、昆布干しの作業に移っていたようである。

提供していただいた写真(図4～6)の中に写っているものは巻き揚げ道具の一部分である。また図7では「ロクロボンズ」に当たるものが「神楽棧(かぐらさん)」と記載されている。船の引き揚げのほか、江戸時代に鯨の解体時などにも使用された(注5)。

- イ ふーん そっかー  
 ニ 今 乾燥機に 昆布 吊るすけど 昔わ みんな 一本 一本 こう 石に  
 昆布 干してたの  
 ハ 外に  
 ニ 外に おもてに こう ねー  
 ヘ だから 個人的にも そして 前 あのー 浜さ 干す ところ ねーば  
 それから あのー 加えて 役場の 今の  
 ト ※※  
 ヘ かん あれ 墓地 あっペー  
 イ うん  
 ヘ 墓地 墓 たつてるとこ あれも なんも 全部 碎石して 浜に  
 そして 運動公園 あっペー グランド あれおな みんな 浜に したの

現在、養殖昆布の乾燥には機械が使われている。しかし、もちろん昔はそのような機械はなかったため、天日干しにする必要がある。昆布に砂などの汚れをつけないために現在でも天然昆布は石の上に干す。干す場所が不足している場合は碎石をして、昆布を干すための浜を作ったようである。ト（70代女性）が「竹の竿に干した」と発言しているが、これは恐らく干す場所がないために竹の竿にも干したのではないだろうか。

#### ⑤ コゲムシ

- ト そして ほれ コゲムシの ※※ コゲムシ 昆布お 見ながら ○○ば  
 おんぶって やったよー

採取した昆布には、コケムシと呼ばれる生物が付着していることがある。『世界大百科事典』によると外形が植物のコケに似ているところからこの名が付けられるとある。また、『北海道方言辞典』には、これが昆布に着いていると昆布の品質が下がってしまうとある。昆布を採取してすぐ、乾いてしまう前に洗い落としてしまえばいいものの、コケムシは物理的に掻き落とす以外に取り除く手段はない。

馬渡（1973）によれば、天然昆布が主流だった時代は、コケムシの幼生は岩や砂などこすれて落ちてしまうことが多かった。しかし、養殖昆布はローブに昆布をつり下げるため、こすれ合うものがなく、コケムシが付着してしまうと大多数が残り群体となる。そのため、昆布の葉面に掌大の白いレース網のようなものがついた状態になり、売り物にならなくなるということが起きた。これは北海道全体としては大問題に発展し、コケムシの研究が進められたとある。

#### ⑨ 現在の昆布干しの様子

- ヘ 手間わ かかる かかる 今わ なもー 生昆布 乾燥場さえ 入れてまれば  
 あと 三回も 入るんだか 乾かして ねっばったの こーして はがして

あれだ そのくらいだ  
 イ んだよねー  
 へ そーせば 乾いたと 思えば 止めて はずして ※※  
 イ 楽だよねー  
 へ 楽でないの それが  
 ニ 楽でないの  
 へ 乾燥するために 油 つかうべや  
 イ あー そっか お金が かかるから

天日干しの時代と比べ、乾燥機ができてからは負担が軽減された。しかし、その代わりに乾燥機を動かす燃料費がかさみ金銭的な負担になっているようである。

⑩ 昆布を選別する場面と、昆布を採寸し裁断する場面に関わる談話  
 へ えー 昔 したからなー あのー その 乾燥した 昆布おー  
 あの セーセンスグル するべ  
 イ うん  
 へ 今みたいに ちゃんと 箱さ 詰めて ケースさ ※※で ねーんだ  
 ト どー やった 昔  
 へ 九十センチの 折った モトソロエ 作ったべー  
 ト うん モトソロエ たっけど 巻いたべさ  
 へ 巻いたんだけど 詰めて 巻いたべやー みんな その へんで  
 ニ 昔 出て 巻いたの

現在、規格に合わせ選別された昆布は加工後専用の箱に詰めて出荷されるらしい。

⑪ 出荷の場面に関わる談話 湿気を防ぐ方法  
 へ そしてなー 採寸したべ 九十に 折って そして ちゃんと  
 天気になれば また 乾燥せねばねーから それが 何日も  
 あの 天気になんねで 干さえねば そっこそ ちゃんと 四角く 積んだ  
 やつ  
 ト ねー  
 へ 品物が 悪く 悪く なるって あのー  
 ト アンカ 入れたんだよー  
 へ アンカ 入れたもんだっけ あれ アンカ  
 イ アンカって なに？  
 ト あれ アンカ 布団 中さ 入れるべさ アンカって  
 イ なんだっけ 湯たんぼ  
 ト ーんー 湯たんぼだべさね アンカってね そやって あれねー こゆうの あれ  
 マメタンって 言うんだかい？

ホ そーそ マメタン  
 ト 入れてね  
 ヘ うんだんだべー  
 ヘ ばかって 蓋してー あらー 真ん中さ あのー  
 ニ 湯たんぼみたいなので あれ

せっかく天日干しにした昆布でも、出荷前に湿気にやられてしまうと商品にならなくなる。それを防ぐため、昆布が保存してある場所へアンカと呼ばれる家庭用の暖房器具や小さな練炭を入れていた。

## 2-2 さまざまな状態の昆布

### ① 雨に当たった昆布の変化

イ んだよねー 今だったら 全部ねー そやって 干した ものも 引っぱって  
 さー 小屋に 入れるけどさー 全部 一本 一本 こってね わたしも やっ  
 てたの ちっちゃい ときに 浜に そしてね 雨 降ればさ 友達の うちに  
 遊びに 行ってもさ 早く 帰らないば 怒られると 思ってさー  
 ニ ムシロに 昆布包んで  
 ト ねー  
 ヘ ムシロさ 包むのわ いんだけど 今 生昆布 浜さ 干し終わってきて  
 やれやれと 思えば 今度 雨 降ってくべー  
 イ そうなのさー  
 ヘ そーせば こゆふに なってる 昆布が あらー  
 ト テッポコに なってまうの テッポコに ねー  
 イ テッポコ？  
 ト テッポコ  
 ニ スイテル 昆布が 丸く くっと なっちゃうの  
 ト テッポーに なってまうの それこそ 丸くね  
 ヘ 水 ほら あたるから  
 ニ テッポーって 言うの  
 ト 丸く なるから  
 イ テッポー ちゅうの？  
 ト うん  
 ニ テッポー テッポーって 言うの 雨 あたれば テッポーに なっちゃう  
 ト テッポーに なってまう 丸くして こって  
 イ ふーん してさ また そやって 集めてれば 今度 晴れてくつけさ

昆布を取った後は旨味を逃がさないよう手早く作業を行う必要がある。夜には昆布が湿気を吸ってしまうため、日のあるうちに干し、夕方には番屋にしまう。天候を見



ながら約2日かけてこの作業を行う。家族総出でこの作業をしなければならず子どもも例外ではない。

二の発話にある「テッポコ」「テッポー」とは、昆布の状態をあらわす語である。浜で天日干しをしている最中に雨が降り、昆布は湿気を吸ってしまう。そうすると昆布は筒状に変形する。天日干しの段階では、昆布はまだ採取したままの長さであり、それが筒状になると鉄砲のように見えることから「テッポー」と呼ぶのであろう。

- ② 一日で乾かなかった昆布  
 ト 昔だっけ 乾燥機 ねー ときわ  
 ニ 次の 日 また 干して  
 ト スネコンブって 干したもんだよねー  
 ニ 次の 日 また その  
 イ また 干すの？  
 ト いや ほんだよ  
 ニ 一日で 乾かない  
 ト 乾かねっから ウンタカタ また ひっでいぐんだよー あのー 天日  
 イ 乾燥機が ない 時代？  
 ト うん ない 時代  
 イ まじで？ いやー 大変だね  
 ニ 乾燥機だら 十時間 今 何時間  
 ヘ うー だいたい 十時間 あったら  
 ニ 十時間 あったら 乾くの 今 乾燥機でね だっけど お日様で  
 干したら やっぱり 一日で 乾けないから 次の日 また  
 ヘ なんぼ いい 天気でも 一日で 乾く こと ないな  
 (中略)  
 ト そして あのー 上の 方に いたとき 屋根さ 上がって それこそ 昆布  
 干したんだよ 乾いた 昆布  
 ヘ スネコンブってなー 前の 日 干した やつ 乾かねーべ そーせば ※※  
 干すわけだ で 屋根なんかだと ほら 日が 強いから 乾くのは えーんだ  
 で  
 ニ ここわね 古部わ みんな 屋根だもね

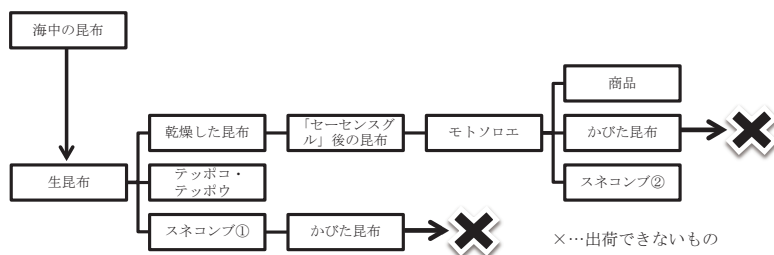
スネコンブについてであるが、人によって意味づけが異なる語である。談話の中では、へ(70代男性漁師)が「前日に干したがまだ乾ききっていない昆布」と発言している。これをスネコンブの意味①としておく。談話に登場していない10歳ほど年齢が下の別の男性は「スネコンブは水揚げして2年目以降の昆布」という認識であった。これをスネコンブの意味②としておく。②の場合、特に生乾きであるという意味をもっていない。寝かすことにより昆布は熟成されているため、通常のものよりも旨味が凝縮されており、形や臭いは通常のものと同じである。

## ③ 湿気にやられた昆布

- ト 練炭みたいなの 入れるんだ マメタン うん それお 昆布が  
悪く ならないように フケル フケルって 言うんだ 昆布 フケルだか  
ねー やったもんだよねー
- イ 白く なんの？
- へ なんも 白く なるよりも
- ト カビ カビ なってまうの
- へ カビ 生えてくるけー
- ト あー ふーに なんの

②では干している最中に雨に当たり変化した「テッポー」や「テッポコ」と呼ばれる昆布について見た。また、一日で乾かなかった昆布は「スネコンブ」と呼ばれることも見たが、いずれも再び天日干し、乾いてしまえば問題はない。しかし、天日干しを終えてから湿気にやられてしまうことがある。フケルは「蒸ける」であり、昆布にカビが生えることである。そうすると商品としての価値はなくなってしまうのである。『日本国語大辞典』に「蒸ける」は「湿気や熱気でいたむ。蒸れたり湿ったりして腐る。」とある。また、同じく「蒸ける」の方言部分の記述には「蒸れたり湿ったりして腐敗する。かびる。」とあり、秋田県や栃木県、新潟県などでも使用されている。昆布の乾燥が不十分だとカビの発生の原因になる。乾燥機のない時代は、炭をつかってカビの発生を防いだ。談話の中で、イ（40代女性）はフケルの意味がわからないためどのような状態のものであるかを聞いている。現在では乾燥機を使用しているため昆布にカビが発生することも少なくなっているのだろう。今後はフケルということばも忘れられてくのかかもしれない。

図8 段階別昆布名称



## 3. 世代別語彙認知度

2015年8月紙面によるアンケート調査をおこなった。昆布漁で見られる特徴的な言葉に着目し、それぞれの言葉にどれほどの認知度があるのかを調査した。インフォーマントは男性5名、女性6名である。

項目ごとに認知度に点数を付けた。「自分も使用し、意味が分かる」を3、「使用はしないが意味は分かる」を2、「意味は分からないが、聞いたことがある」を1、「意

味が分からず、聞いたこともない」を0とした。

- ① タバカゼ・タマカゼ 10 (男7 女3)  
 突然北から吹く風 (71歳・男) 沖から吹いてくる風 (79歳・男)  
 風がタバになって吹いてくる、北西の風 (65歳・男)  
 浜、下の方から来る風 (65歳・女)
- ② スネコンブ 13 (男7 女6)  
 古い昆布 (71歳・男) 1日前の昆布 (65歳・女)  
 次の日に昆布を干すこと (65歳・男)  
 1回に昆布を次の日に乾かす昆布 (59歳・女) 前の日の昆布を干すこと (75歳・女)
- ③ ムジル 10 (男7 女3)  
 風の向きが変わる (71歳・男)(39歳・男) (風に限らず)ねじること (75歳・女)  
 風の吹き方のこと (79歳・男)
- ④ テッポー・テッポコ 9 (男5 女4)  
 昆布が細く、丸くなること (79歳・男) 昆布が丸くなること、また「ちゃんちゃんこ」のこと (75歳・女) 昆布が丸くなっていること (59歳・女) 丸く乾いた棒状の昆布 (65歳・男)
- ⑤ コゲムシ 30 (男15 女15)  
 昆布につく虫 (71歳・男)(75歳・女)(65歳・女)(68歳・女)(39歳・男)  
 昆布につくコケのような虫 (65歳・男)(59歳・女)(38歳・男)(33歳・女)  
 昆布につくカビのような虫 (79歳・男)
- ⑥ センセースグル 3 (男3)  
 製品づくりのこと (79歳・男)  
 センセースグリ 一回間引きすること (68歳・女)
- ⑦ モトゾロエ 19 (男8 女11)  
 舟に乗って昆布の頭をそろえる (71歳・男)  
 沖に舟に乗っていて、昆布をそろえること (65歳・女)  
 沖で昆布の頭をそろえること「もとをそろける」とか「もとぞろけ」と言う (65歳・男)  
 もとをそろえる (昆布の頭をそろえる) (59歳・女)(33歳・女)  
 昆布の頭をそろえること (38歳・男)  
 昆布をそろえること (39歳・男)
- ⑧ フケル 19 (男8 女11)

- 昆布の表面が灰色がかってにおいがしてくる状況 (71 歳・男)
- 昆布がやわらかくなって、カビがはえたように白くなること (65 歳・女)
- しめってカビがはえる (65 歳・男) (75 歳・女)
- 昆布がしめって粉をふくこと (59 歳・女) (38 歳・男)
- 昆布がかぶける (かびる) こと (68 歳・女)
- やわらかい昆布にカビのようなもの付き、白くなる (79 歳・男)

#### アンケート結果の考察

近年、養殖が盛んになったことによって問題となっている「コゲムシ」に関しては、若年層の認知度も高かった。「トモゾロエ」「フケル」もまだ若年層へ受け継がれているようである。

認知度の低い項目についてであるが、「テッポー・テッポコ」は天日干しから乾燥機を使用するようになったことにより、雨にぬれた状態の昆布を見ることがなくなったためだと推測する。「タバカゼ・タソバカゼ」、「ムジル」はどちらも風に関わる語である。現在の機械の船は、手漕ぎの船よりも風の影響を受けにくい。風の変化によって命の危険にさらされることが少なくなったため、若年層の認知度が低かったと推測する。

#### 4. まとめ

3年にわたる調査で、南茅部地域で使用される生活語彙について詳しく見る事ができた。その中でも、昆布の様々な状態をあらわす言葉が存在すると分かったのは大きな発見である。『北海道方言辞典』に採録されていない語が複数見つかり、高齢層での認知度が高かったのにもかかわらず辞典には載っていなかった語もあった。昆布漁に焦点を絞った調査をしたことが今回の結果につながったのだと思う。

昆布漁に関わる語についてであるが、南茅部地域で採れる昆布は天皇家へも献上されていた。高い品質を維持するためには昆布の状態の変化には敏感でなければならぬだろう。それが昆布の状態を分類する語の豊かさに関わっているのだと感じた。現在の養殖昆布漁では機械化が進んでいる。天然昆布漁のときと比べ、命の危険にさらされることや、手間のかかる作業は減った。それに伴い、注意深く風の状態を観察する度合いや付きっきりで昆布を干す作業をすることもなくなった。機械化による変化が言葉の面でも認知度としてあらわれた。

認知度調査に関して、「コゲムシ」という語が若い世代でも認知度が高かったことが印象的であった。やはり出荷する昆布の品質に関わってくる問題であるので、それだけどの世代でも関心が高いのだろう。昆布漁現役世代のインフォーマントの確保が難しく、現地に赴くことがなかなかできなかった。そのため老年層の方々の言葉がどれほどの割合で受け継がれているのかの調査には課題が残った。今後詳しく見ていくことによりまた新たな発見があるだろう。

昆布漁に関わる語一覧表

2013～2015のトランスクリプト、およびアンケート調査において認められた語彙を以下の表に示す。

「北方」…北海道方言辞典 「日国」…日本国語大辞典

「百科」…各種事典 「新出」…どの辞典、事典にも載っていないかったもの

昆布漁に関する語	北方	日国	百科	新出	意 味
船外機		○			推進機を持たない小型船に取り付けられる、取り外し可能な推進機関。
櫓		○			船を漕ぎ進める道具の一つ。
タバカゼ	○				西北西から北北西にかけて吹く風。タマ、タバカゼともいう。
ムジル	○	○			北方…曲げる、向きを変える。日国…もじる。ねじる。よじる。ひねる。(方言)向きを変える。青森県津軽など

昆布漁に関する語	北方	日国	百科	新出	意 味
マグ	○				(船のとも綱を)巻き揚げる。
テトラ				○	テトラポッド
ムシロ		○			藁・竹・藁・蒲などで編んだ敷物の総称。
生昆布				○	まだ干す作業をしていない昆布。
テッポコ				○	湿気を吸い、丸く変形した昆布。鉄砲+「こ」
テッポーニナル				○	雨にあたるなどして昆布が湿気を吸い、筒状の丸い形になること。
スイテル				○	恐らく湿気を吸うことか
スネコンブ				○	①生乾きの昆布 ②水揚げして二年以降の熟成された昆布
フケル		○			蒸ける…湿気や熱気でいたむ。蒸れたり湿ったりして腐る。(方言)蒸れたり湿ったりして腐敗する。かびる。

昆布漁に関する語	北方	日国	百科	新出	意 味
セーセンスグル	○				北方…スグルは間引くこと。セーセンは恐らく精選のことか。品質の良いものだけ残すこと。
モトソロエ			○		昆布を伸展して乾燥し、葉元を三日月形に整形したもの。

イカ釣りに関する語	北方	日国	百科	新出	意 味
イカツケ	○				北方…イカツり。釣るのではなく、かぎ針に引っかけてあげるため、漁師はイカツケを用いる。イカツりは昭和に入って後の新しい語。
イカのし		○			するめを薄く押し伸ばしたもの。味付けしたものもある。もとは、みりんに浸してから木槌で打ち伸ばした。

植物に関する語	北方	日国	百科	新出	意 味
ドンガイ・ドンゲ	○				イタドリ。北方…ドンガイはスカンポ。オオイタドリ(タデ科)。ドンゲともいう。
ダイス	○				北方…ダイシはスイバ。スカンポ(タデ科)若芽を食用とする。
ニオ	○				北方…ニヨは山菜。
オトコニオ				○	ニオの中の一つ。オンナニオよりも味が劣る。
オンナニオ				○	ニオの中の一つ。オトコニオと比べ美味。
シャク	○				シシウド(セリ科)。山地に自生する大型の多年草。
ミズ	○	○			北方…ミズナはウワバミソウ(イラクサ科)。ミズ、アカミズ、ボンミズ、ミズブキ、トロログサなどの異名も多い。
ヤマイチゴ		○	○		モミジイチゴ。バラ科の落葉低木。果実は球状に集まった核果で夏に黄色く熟す。キイチゴ・ヤマイチゴ・バライチゴ。

クワ (の実)		○	○		甘く、淡い酸味と特有の香りがあり、生食すると指やくちびるが赤く染まる。山村の子供たちの大好物。
オンコ (の実)	○	○	○		イチイ。道内では庭園樹として多く植えられている。
クリ		○	○		日本、朝鮮原産の落葉高木。果実は10月に熟し、いぐの中に1ないし3個のたねがあり、濃褐色で光沢がある。
スモモ		○	○		中国原産の落葉小高木。果実は梅雨あけ頃に熟し、黄または紫紅色でつやがある。
コクワ		○	○		マタタビ科のつる性落葉低木。果実は長楕円形の液果で緑黄色に熟す。シラクチツル・シラクチ・コクワ・ミズツル。
マタタビ		○	○		中国、満州、朝鮮、日本などに自生する高さ5mほどの落葉灌木。やや辛く、特有の香りがあり、酒の肴、精力剤に珍重される。

遊びに関する語	北方	日国	百科	新出	意 味
パッチ	○	○			めんこ。パッタともいう。パッチは海岸に多くメンコ、パッタは内陸に多い。
ラムネ				○	ビー玉遊び。ラムネ飲料の瓶の中にビー玉が入っていることから。
かくれんぼ		○			隠坊(かくれんぼう)。子どもの遊びの一つ。数人が物陰に隠れ、鬼になった一人がそれを探し出す。
マルシケン				○	石を使った遊び。地面に描かれた円に従い、石を投げた場所まで跳ぶ。
イッケニケ				○	石を使った遊び。石を投げ、その場所まで指定された歩数で移動する。
おはじき		○			子どもの遊びの一種。貝殻、小石、ガラス玉など出して席上にまき、指先ではじき、あてて取り合いをするもの。
アヤコ	○				お手玉。女子の遊び道具。
アシケリ				○	石を使った遊び。
縄跳び		○			遊戯の一種。縄の両端を持って、まわしながら、縄に当たらないようにくぐったりするもの。
ゴム飛び		○			ゴムひもや輪ゴムをつなげたりしたものを横に張り渡して、それを飛び越える遊び。

動詞・助動詞・あいさつ語	北方	日国	百科	新出	意 味
ホドナ				○	子どもをたしなめる際に使用する。やめなさいの意。
ジャンボカル	○				髪の毛を切る。
ハダマリスル				○	(女性の)髪の毛を切る。
ネマル	○	○			楽にして座る。
メヤグ				○	ありがとう。
チャチャビチャ コニスルナ		○			茶々無茶苦茶…台無しにする意。台無しにするな。物を大切にしない意。
～マル	○				～しまう。補助動詞として用いる。
ひっでいぐ	○				連れて行く。
ねっばる	○	○			ねばる。しつこくつきまとう。
かつて				○	かじって。
うめば	○				熟すれば。北方…ウムは熟すこと。
セ	○				～なさい。丁寧に相手にある動作を促す。
サイ	○				～なさい。古語では軽い敬意をもった命令の意を表す。

その他の語	北方	日国	百科	新出	意 味
オンチャ	○				弟。叔父。次男以下。

どっちゃ		○			日国どちらの変化した語で、さらにくだけた言い方。
がた	○				たち(複数)。敬意を含む接尾語だが、敬意を意識せずに自称の複数に用いている。
ウンタカタ				○	ものを引っ張るときなどに出す掛け声。ウントコショが変化した形か。
アンカ	○	○			行火。炭火を入れて手足を温めるために用いる暖房器具。
マメタン	○	○			練炭の粉に木炭などの粉をまぜ、粘結剤を加えて豆形・卵形に固めた家庭用燃料。
べったらこい	○				へん平。平たい。
はだの足				○	裸足。
われ足				○	乾燥してかかとがひび割れた足。
カサマ				○	軽い敬意をこめて年上の女性を呼ぶ語。
カラボネヤマネーデ	○				怠けないで。面倒くさがらずに。北方…怠け者、役立たずの意。カラボネヤミともいう。
ストーブ				○	ストーブ。

## 注1 函館市HPより引用

(<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014022100318/>)

hokkaido.jp/docs/2014022100318/)

## 注2 「ン」…入り渡り鼻音

注3 柳田國男『風位考資料』昭和10年  
國學院大学方言研究会発行

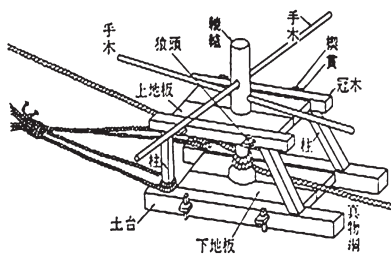
注4 3. 世代別語彙認知度①参照

注5 カグラサン 2～4人で軸にロープ

を巻きながら、石や大木などの重量物の  
運搬を行う装置。太い柱を軸とし、そこ

の丸太などの回し棒を、横向きに取り付けている。2～4人で回し棒を押して軸に  
綱を巻き取り、荷をたぐり寄せる。海岸で地引き綱を巻き取る装置と同じ構造であり、  
昔は石を曳くための主力的な道具であったが、現在はウインチにとって代わっ  
ている。(図9 造園工具事典)

(<http://www.weblio.jp/category/architecture/zekgj>)



## 【参考文献】

石垣福雄 『日本語と北海道方言』 1976年 北海道新聞社

『北海道方言辞典』 1983年 北海道新聞社

小野米一 『北海道方言の研究』 1993年 学芸図書

宇治谷孟 『続日本紀(上) 全現代語訳』 1992年 講談社

柳田國男 『風位考資料』 1935年 國學院大學方言研究会

馬渡駿介 「ヒラハコケムシの生活史」 『動物と自然』 3(9) 1973年

菅沼喜一 『青森方言集』 1975年 国書刊行会

浅野健二 『仙台方言辞典』 1985年 東京堂出版

柳田國男 『風位考資料』 1935年 国学院大学方言研究会

- 小山田与清『勇魚取絵詞』 1829 年  
竹中征機『南茅部漁民風雪史考』 2002 年長門出版社  
荒木恵吾『町制施行 30 周年記念 南茅部町史写真集「海のふるさと」』  
1989 年 小町印刷有限会社  
『日本国語大辞典 第二版』 2000 年 小学館  
『世界大百科事典』 1988 年 平凡社  
『図説 花と樹木の大事典』 1996 年 柏書房株式会社  
『食用植物大図説』 1970 年 女子栄養大学出版部  
『伝承遊び事典』 1985 年 株式会社黎明書房  
函館市 HP <http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/>  
かまだ商店 HP <http://www.hakodate.ne.jp/kamada/>  
『函館市史デジタル版』 [http://www.lib-hkd.jp/hensan/hakodateshishi/shishi\\_index.htm](http://www.lib-hkd.jp/hensan/hakodateshishi/shishi_index.htm)  
国立国会図書館デジタルコレクション <http://dl.ndl.go.jp/>  
〈なかむら まどか／2015 年日本語・日本文学科卒〉